

Tokyo Institute

2021年度

for 理論言語学講座要項

東京言語研究所

Advanced Studies of Language

開講期間

前期 ● 2021年5月～7月

後期 ● 2021年9月～12月

申込期間

前期 ● 2021年3月26日(金)～4月30日(金)

後期 ● 2021年8月13日(金)～9月17日(金)



2021年度 理論言語学講座 目次

委員長挨拶、研究所沿革、運営委員・顧問…………… P2～3

講座申込方法…………… P4～5

講座日および教室…………… P6

受講規定…………… P7

講座紹介…………… P8～9

時間割…………… P10

春期講座のご案内…………… P11

書籍のご案内…………… P12

理論言語学講座講義概要…………… P13～24

教室地図…………… P25

運営委員・顧問 (2021年2月現在 50音順)

運営委員長 ● 窪 蘭 晴夫 (国立国語研究所教授)

運営委員 ● 今西 典子 (東京大学名誉教授)
大堀 壽夫 (慶應義塾大学教授)
川村 大 (東京外国語大学教授)
酒井 智宏 (早稲田大学教授)
佐野 哲也 (明治学院大学教授)
嶋田 珠巳 (明海大学教授)
杉岡 洋子 (慶應義塾大学名誉教授)
高橋 将一 (青山学院大学教授)
長屋 尚典 (東京大学准教授)
西村 義樹 (東京大学教授)

顧 問 ● 池上 嘉彦 (東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授)
池内 正幸 (名古屋外国語大学教授)
上野 善道 (東京大学名誉教授)
大津由紀雄 (関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授)
尾上 圭介 (東京大学名誉教授)
梶田 優 (上智大学名誉教授)
西山 佑司 (慶應義塾大学名誉教授)
長谷川欣佑 (東京大学名誉教授、獨協大学名誉教授)

運営委員長挨拶

東京言語研究所は1966年3月、故服部四郎博士（東京大学教授、当時）の構想をもとに開設されました。服部博士は当時、日本の大学のシステムの制約上、ほとんど満足のいく教育体制が存在しないことに強い危機を感じられ、大学の枠を超えて、才能ある人々に言語学の重要性和面白さを認識させる「言語学の塾」を創設しようと考えられました。

その目的に沿って、研究誌や月刊誌の刊行、公開講座や国際セミナーの実施など数々の企画が実行されました。その中核に位置づけられていたのが、1966年5月以来、休むことなく毎年開講されてきた理論言語学講座です。それは、第一級の教授陣を配した、体系的なカリキュラムからなる言語科学専門のコースです。1960年代と今日とでは、言語学環境は大きく変わりましたが「言語の理論的研究に裏打ちされた真の言語学基礎教育をおこなう」という講座の目的・理念は今でも変わっていません。

その一方で、理論言語学講座も21世紀の言語科学が向かう先を見据えて、新しいカリキュラムを構築し、人々の現代的要請に応えようとしています。2016年に研究所が開設50周年という重要な節目を迎えたのを機に、今後の理論言語学講座のあり方について検討を重ね、2017年度から理論言語学講座の開講時間と時間割を大幅に変更いたしました。具体的には、毎日2時限（各90分）x11週という時間割から毎日100分の1限制に変更し、また講座を原則として半期制にしました。1日に受講できる授業数は減りましたが、授業開始時間が6時から7時変わったことに伴い、仕事や大学の授業を終えてからの参加が容易になったのではないかと思います。この改革に伴い、理論言語学講座の授業が一部、集中講義（夏期集中）として実施されることになりました。また2020年にはコロナ禍に対応するためにオンラインでの授業が導入され、首都圏以外の方々の受講も可能になりました。

本研究所では、このような形で理論言語学講座の一層の充実を図ると同時に、以下のような多彩な事業を毎年企画しています。

- (i) キックオフである春期講座
- (ii) ことばと関連した諸分野の第一線で活躍されている講師による公開講座
- (iii) 理論言語学の専門家を講師に迎える集中講義
- (iv) 教師のためのことばワークショップ（2021年は教師のためのことばセミナー）

一人でも多くの方が、言語の本質を問題にする本講座を受講され、ことばについて考えることの楽しさと奥深さを共有していただきたいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

東京言語研究所 運営委員長
窪 蘭 晴夫

2021年度 理論言語学講座受講にあたって

受講条件

大学教養課程修了程度の一般的な学力があることが望ましい。学歴、年齢、国籍は問わない。

申込み方法

1. オンライン：東京言語研究所ホームページの「受講申込みフォーム」に必要事項を入力の上、送信する。
2. ファックス：東京言語研究所ホームページよりダウンロードした「FAX送信用申込み用紙」に必要事項を記入の上、送信する **(03-6233-0633)**。

申込期間

1. 前期講座 3月26日(金)～4月30日(金) AM10:00まで
 2. 夏期集中講座 7月2日(金)～8月3日(火) AM 10:00まで
 3. 後期講座 8月13日(金)～9月17日(金) AM10:00まで
- ※時間はオンライン、ファックス申込みともに当研究所への到着時間期日までに新規生および継続生ともに受講申し込みおよび受講料の振込をおこなう。(申し込み締め切りと受講料の振込期日は同日)
- 「新規生」とは、東京言語研究所で理論言語学講座を初めて受講する方(過去に春期講座や集中講義、公開講座を受けた方も新規生となります)
- 「継続生」とは、過去5年以内に理論言語学講座を受講した経験のある方

※受講料の振り込みを確認次第、事務局より受講票をお送りします。オンライン講義 URL は講義開始前週の金曜日までに ZOOM 招待 URL をお送りします。

■入学金 11,000 円 (初年度新規生のみ)

■受講料

1. 一般

- ・半期講座 1 課目 25,000 円
- ・通年講座 1 課目 50,000 円

2. 学生・大学院生

- ・半期講座 1 課目 12,500 円
- ・通年講座 1 課目 25,000 円

※ 通信教育課程や課目等履修生は学生割引対象外です。

※ 学生割引希望者は、学生証のコピー (メール添付可) をご提出いただきます。

●受講料の振込先

1. 郵便振替 00110-8-43537
(名義) 財団法人 ラボ国際交流センター

2. 銀行振込

- りそな銀行 (銀行コード番号 0010)
新都心営業部支店 (支店番号 675)
普通預金 口座番号 6726641
(名義) 公益財団法人ラボ国際交流センター
ガイ) ラボコクサイコウリュウ センター
- ※恐れ入りますが、振込手数料は各自でご負担ください。

3.海外からの送金情報

● BANK ACCOUNT

- ・ Bank Name & Address : りそな銀行 新都心営業部
Resona Bank, Ltd
Shintoshin Banking Department
6 - 12 - 1 Nishi-shinjuku Shinjuku-ku Tokyo Japan
- ・ Account Number : Savings account 6726641
- ・ Swift code : diwajpjt
- ・ Nominee : 公益財団法人ラボ国際交流センター
Labo International Exchange Foundation
1 - 3 - 21 Okubo Shinjuku-ku Tokyo Japan

※海外からの送金の場合も振込手数料は受講者負担となります。手数料は国や銀行によって異なりますので各自でご確認ください。

前期 開講式およびオンラインガイダンス

4月24日(土) 10:00 ~ 11:45

1. ミニ講義「言語研究の面白さ」講師:池上嘉彦(東京大学名誉教授 昭和女子大学名誉教授)
2. 理論言語学賞授賞式
3. 理論言語学講座オリエンテーション

後期 開講式およびオンラインガイダンス

9月11日(土) 10:00 ~ 11:00

1. ミニ講義「言語研究の面白さ」講師:窪園晴夫(国立国語研究所教授)
2. 理論言語学講座オリエンテーション

※ガイダンスは受講を確定された方だけではなく、受講を検討中の方も受けられます。
(事前登録制)

1.スケジュール

月～金曜、前期 10回、後期 10回 19:00 – 20:40 100分（祝祭日は休講）

2.日程

| | 前 期 | 後 期 |
|---|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 月 | 5/10,17,24,31,6/7,14,21,28,7/5,12 | 9/27,10/4,11,18,25,11/1,8,15,22,29 |
| 火 | 5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6,13 | 9/28,10/5,12,19,26,11/2,9,16,30,12/7 |
| 水 | 5/12,19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,14 | 9/29,10/6,13,20,27,11/10,17,24,12/1,8 |
| 木 | 5/13,20,27,6/3,10,17,24,7/1,8,15 | 9/30,10/7,14,21,28,11/4,11,18,25,12/2 |
| 金 | 5/14,21,28,6/4,11,18,25,7/2,9,16 | 10/1,8,15,22,29,11/5,12,19,26,12/3 |

| | |
|-----|--|
| 夏 期 | 認知言語学 I 8月週末 3日間（日付が確定次第研究所ホームページに掲載） |
| 集 中 | 日本語文法と一般言語理論 8月週末 3日間（日付が確定次第研究所ホームページに掲載） |

3.対面形式講義 教室

新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階 ラボ国際交流センター内
 （2021年4月よりビル名が「ルーシッドスクエア新宿イースト」に変更）

4.受講にあたって

- ・全講義オンライン(ZOOM)で配信します。一部講座については、対面形式の講義を併用予定です（時間割表参照）。その際は講義を中継いたします。
- ・講義はリアルタイムでの受講のみで、ご自身での講義の録画は原則的にできません。
- ・事務局の内部資料として講義全般を録画させていただく場合があります。録画した講義の二次使用はいたしません。なお、理由の如何を問わず録画した講義は、視聴の要望にはお応えできませんのであらかじめご了承ください。
- ・参加者のパソコン等の性能やインターネット回線によっては、正常に受信できない場合があります。必ず、事前にご確認ください。

5.講義資料

講義資料は事前に受講生にクラウドやメール添付などでお渡しします。必要に応じてプリントアウトしてください。

6.休講

- ・講師の都合等で休講となる場合があります。その際は別途補講を実施します。
- ・講義当日に休講が発生した場合は、電話と E-mail でご連絡します。申込みの際は平日の昼間に繋がる電話番号をご登録ください。

7.レポートの提出

講義終了後に成績評価のためのレポート提出(任意)を受け付けます。期限は各課目によって異なるため、各講師の指示する指定日までにご提出ください。

8.その他 講座開講の要件

講座開始の 1 週間前(18:00)までに受講生が 10人に満たない場合は不開講となります。講座が開講されない場合、当該課目の受講予定者には E-mail にてご連絡します。

※納入済の受講料は返金します。

事務局問い合わせ受付時間

月～金曜日 10:00 – 18:00 ※社会情勢により受付時間に変更になる可能性があります。

受講規定

- (1) 在籍年限は特に定めない。
- (2) 各年度の受講課目数は原則として制限しない。ただし、授業開始後の受講課目変更は原則として許可しない。
- (3) 1 課目につき、出席回数が講義実施回数の2分の1以上であることを学期末及第とする。
- (4) 学期末の成績評価は、原則として提出されたレポートに基づいておこなう。成績は、A, B, C, Dとし、C以上を及第とする。
- (5) 別途定める基準により、卒業認定された受講者には、本講座の卒業証書を授与する。当該受講生は、以後、随意の講義を担当講師の許可を得て無料で受講することができる。
- (6) 同一課目を2回以上受講した場合には、卒業の際、その最高点をもって当該課目の成績とする。
- (7) 6年連続して出席率が2分の1以上の課目がない場合は除籍する。但し、休学期間は算入しない。
- (8) 休学期間は最長連続6年とする。(休学手続きは、予め事務局に備付けの用紙を用いて行うこと)
- (9) 通年講座で開講後受講回数10回以下で退学することが予め判っている者、ならびに10月以降の受講開始を希望する場合は、担当講師の許可を得て受講を認める。その際の実費(受講料の半額に2000円プラスしたもの)とする。すなわち、1課目受講につき、(受講料の半額+税)+2000円とする。学生対象者も上記に準じる。
- (10) 当研究所の都合以外の理由で定められた日時までに受講料納入手続きを完了しない場合、および受講手続き終了後の受講課目変更の場合には、特別手数料として1件につき1,000円申し受ける。
- (11) 講座開講後、既納入諸費用は受講講座不成立の場合を除き、原則として返金しない。

・服部四郎賞、理論言語学賞

- (1) 服部四郎賞は学術的に特に優れたと認められる論文(講座のレポート)に対して与えられる。副賞の奨学金は10万円とする。
- (2) 理論言語学賞は講座において成績優秀なものに与えられる。副賞の奨学金は4万円とし、受講者は毎年5人程度をめやすとする。ただし、同一受賞者は同一課目につき3回までとする。また、半期講座の場合の奨学金は2万円とする。「学生割引対象者」上記の半額とする。

・卒業要件

下の規定を満たした者に本講座の卒業証書を授与する。

規定

- ①通年講義1課目1年を1単位、半年講義1課目半年を0.5単位として、合計12単位を優秀な成績をもって取得すること。
- ②上記12単位の中に、別表(p.7参照)に記すI群からV群の科目群について下に示す単位数を含むこと。
 - I群から1単位以上。
 - II群から2単位以上。
 - III群から1単位以上。
 - IV群から1単位以上。
 - V群から3単位以上。

「優秀な成績」の基準および、個々の単位の認定の詳細に関しては運営委員会で決定する。ただし、上記は2012年度以降に入学した者に対して適用するものであり、2011年度以前に入学した者については別途これを定める。なお、卒業者は本講座の講義を、担当講師の許可を得て、無料で聴講することができる。

・証明書発行手数料

在籍証明書、単位取得証明書、卒業証明書各1通につき1,000円。

| | 講義カテゴリー | 講義題目 (担当者) |
|--------------|----------|---------------------|
| I 群 | 言語学入門 | |
| | 言語学概論 | 言語学概論 (窪園晴夫他 9 名) |
| | 言語学史 | |
| II 群 | 音声学 | 調音音声学 (中川 裕) |
| | | 実験音声学 (北原真冬) |
| | 音韻論 | 日本語のプロソディー (窪園晴夫) |
| | 形態論・語形成論 | 形態論と意味 (松本 曜) |
| | 統語論 | |
| | 意味論 | 意味論の基礎 (酒井智宏) |
| | 語用論 | 語用論入門 (松井智子) |
| III 群 | 生成文法入門 | 生成文法 I (高橋将一) |
| | 生成文法 | 生成文法 II (斎藤 衛) |
| IV 群 | 認知言語学入門 | 認知言語学 I (西村義樹) |
| | 認知言語学 | 認知言語学 II (池上嘉彦) |
| V 群 | 社会言語学 | 社会言語学 (嶋田珠巳) |
| | 史的言語学 | 歴史比較言語学入門 (吉田和彦) |
| | 言語心理学 | 言語心理学入門 (大津由紀雄) |
| | 日本語文法理論 | 日本文法理論 I (尾上圭介) |
| | | 日本文法理論 II (川村 大) |
| | 言語学特殊講義 | 日本語文法と一般言語理論 (三宅知宏) |
| | 言語学特殊研究 | 言語類型論 (長屋尚典) |

理論言語学講座は、2021年度も、広い研究領域について数多くの課目を開講しました。各課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体について鳥瞰いたします。

8頁のⅠ～Ⅴ群の区別は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。2021年度は全体で、前期と後期各7課目、通年3課目、夏期集中2課目の計18の課目を用意しました。Ⅰ群の課目は、言語学を初めて学ばれる方や、言語研究の諸分野を万遍なく学びたいという方向けに開講するもので、今年度は言語学概論を前期と後期に分けて設定しました。10名の講師がそれぞれ専門の分野を2回ずつ担当するリレー形式の講義です。前期と後期の半期科目として設定されていますが、言語研究の全体像をつかみたい方には両期の受講をお薦めします。

Ⅱ群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」に「調音音声学」（前期）と「実験音声学」（後期）の2課目を設定しました。前期の授業では音声の多様性とその背後にある仕組みを説明しながら多様な音声を聞き分け発音する訓練を行い、後期の授業では音声分析ソフトを使った実験音声学の基礎を学びます。いずれも実習形式の授業です。「音韻論」（後期）では、一般言語学・対照言語学の視点から日本語のプロソディー構造を分析します。「形態論・語形成論」（前期）では意味論的な視点から語の構造を考察します。「意味論」（後期）は意味に関わる多様な言語理論を背景に、意味研究の基礎を学ぶ課目です。「語用論」（後期）では、言語発達・障害という視点も含めて人間の語用能力をさまざまな側面から探ります。

現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流がありますが、これらを学ぶのがⅢ群とⅣ群の課目です。Ⅲ群の生成文法については「生成文法Ⅰ」（通年）と「生成文法Ⅱ」（前期）を設定しました。前者では生成文法を基礎から学び、後者では60年余に及ぶ生成統語論の歴史から科学としての言語学の方法を学びます。

Ⅳ群の認知言語学にも2課目用意しました。「認知言語学Ⅰ」（夏期集中）では、Langackerの著作を読みながら認知文法の基礎と最前線を学び、「認知言語学Ⅱ」（通年）では、『「する」と「なる」の言語学』とその周辺を探ります。

Ⅴ群に属する講座として7つの課目を用意いたしました。「社会言語学」（後期）では、話し言葉の多様性を社会言語学的に分析します。「史的言語学」（後期）はこれまで英語や日本語の歴史が中心でしたが今年度は歴史比較言語学の視点から言語変化のメカニズムを考察します。「言語心理学」（前期）では認知科学の一分野としての言語心理学を概説しながら言語獲得と言語理解のおもしろさに迫ります。

Ⅴ群にはまた、異なる観点から現代日本語の文法を考察する3つの課目を開講します。まず「日本語文法理論Ⅰ」（通年）では「文とは何か」という文法論の基本的な問題を再考し、「日本語文法理論Ⅱ」（前期）では受身文・ラリ文を題材に文法形式の多義の分析から文法の基本問題を探ります。さらに「日本語文法と一般言語理論」（夏期集中）では日本語の具体的な言語事実の記述から理論的な説明を目指します。最後に「言語類型論」（前期）では語順やテンス・アスペクトなどを題材に言語類型論と呼ばれる学問分野を紹介します。

このように、2021年度も多様な講座を用意いたしました。できるだけ幅広く、さまざまな課目を計画的に受講していただきたいと思います。

(運営委員長 窪園 晴夫)

2021年度 講座時間割

● 前期 5月10日～ 10週間（祝祭日は開講しません）1コマ100分

| 時間 | 月 | 火 | 水 |
|-----------------------|------------------------------|----------------------------|--|
| 19:00～20:40 (100分) | 言語学概論 窪菌晴夫他4名 | 調音音声学 中川裕 東京外国語大学 | 言語心理学 大津由紀雄 関西大学客員教授 |
| | 日本語文法理論Ⅱ 川村大 東京外国語大学 | 認知言語学Ⅱ 池上嘉彦 東京大学名誉教授 | 言語類型論 長屋尚典 東京大学 |
| 時間 | 木 | 金 | 夏期集中(3日間) 西村義樹 東京大学 認知言語学Ⅰ 8月週末予定 三宅知宏 大阪大学 日本語文法 8月週末予定 |
| 19:00～20:40 (100分) | 生成文法Ⅰ 高橋将一 青山学院大学 | 生成文法Ⅱ 斎藤衛 南山大学 | |
| | 日本語文法理論Ⅰ 尾上圭介 東京大学名誉教授 | 形態論 松本曜 国立国語研究所 | |

● 後期 9月27日～ 10週間（祝祭日は開講しません）1コマ100分

| 時間 | 月 | 火 | 水 |
|-----------------------|------------------------------|-----------------------------|--|
| 19:00～20:40 (100分) | 言語学概論 長屋尚典他4名 | 史的言語学 吉田和彦 京都産業大学客員教授 | 音韻論 窪菌晴夫 国立国語研究所 |
| | 語用論 松井智子 東京学芸大学 | 認知言語学Ⅱ 池上嘉彦 東京大学名誉教授 | 社会言語学 嶋田珠巳 明海大学 |
| 時間 | 木 | 金 | オンラインガイダンス (視聴無料、登録制) 前期4月24日(土) 後期9月11日(土) ・各講師が講座概要をオンライン配信 ・ミニ講演「言語研究の面白さ」(前期後期各30分) |
| 19:00～20:40 (100分) | 生成文法Ⅰ 高橋将一 青山学院大学 | 意味論 酒井智宏 早稲田大学 | |
| | 日本語文法理論Ⅰ 尾上圭介 東京大学名誉教授 | 実験音声学 北原真冬 上智大学 | |

※1日(19:00-20:40)に受講できるのは1科目です。

言語学概論 担当者および担当日

| | | | |
|----|------|----------|-------------|
| 前期 | 窪菌晴夫 | 音声学・音韻論 | 5/10, 17 |
| | 杉岡洋子 | 形態論・語形成論 | 5/24, 31 |
| | 酒井智宏 | 意味論・語用論 | 6/7, 14 |
| | 嶋田珠巳 | 社会言語学 | 6/21, 28 |
| | 吉田和彦 | 史的言語学 | 7/5, 12 |
| 後期 | 長屋尚典 | 言語類型論 | 9/27, 10/4 |
| | 高橋将一 | 生成文法 | 10/18, 25 |
| | 大堀壽夫 | 認知言語学 | 11/1, 8 |
| | 佐野哲也 | 言語心理学 | 11/15, 22 |
| | 川村大 | 日本語文法理論 | 11/29, 12/6 |



対面



ZOOMによる
オンライン

春期講座のご案内

二日間で、受講者に現代言語学の主要な研究領域やアプローチを紹介し、魅力ある言語学の世界へ誘うことを目的としています。2021年度理論言語学講座を担当する講師を中心に講座編成がおこなわれているので、理論言語学講座を検討中の方はこの講座を受講することをお勧めしています。詳細は研究所ホームページをご覧ください。

| 課 目 (講 師) | | |
|--|-----|----------------------------|
| 1日目 4月17日 (土) | 1 限 | 音韻論 (窪園晴夫) オンライン |
| | | 日本語文法理論Ⅱ (川村大) オンライン |
| | 2 限 | 形態論と意味: (松本曜) オンライン |
| | | 社会言語学 (嶋田珠巳) オンライン |
| | 3 限 | フィールド言語学入門 (長屋尚典) オンライン |
| | | 音声学 (中川裕) オンライン |
| | 4 限 | 認知言語学Ⅰ (西村義樹) オンライン |
| | | 生成文法入門 (高橋将一) オンライン |
| 2日目 4月18日 (日) | 1 限 | 認知言語学Ⅱ (池上嘉彦) オンライン |
| | | 実験音声学 (北原真冬) オンライン |
| | 2 限 | 言語心理学 (大津由紀雄) 対面 + オンライン |
| | | 認知語用論 (松井智子) オンライン |
| | 3 限 | 生成文法Ⅱ (斎藤 衛) オンライン |
| | | 日本語文法理論Ⅰ (尾上圭介) 対面 + オンライン |
| | 4 限 | 史的言語学 (吉田和彦) オンライン |
| | | 意味論への招待 (酒井智宏) オンライン |

- ・ 1 限 (10:00 ~ 11:20) ・ 2 限 (11:40 ~ 13:00)
- ・ 3 限 (14:00 ~ 15:20) ・ 4 限 (15:40 ~ 17:00)

書籍のご案内

「ことばの科学」

西山佑司・杉岡洋子〔編〕

定価：本体 2000 円 + 税

ことばの科学

東京言語研究所開設50周年記念セミナー

西山佑司・杉岡洋子 編

影山太郎
高見健一
窪園晴夫
三宅知宏
嶋田珠巳
高橋将一
大堀壽夫

開拓社

服部四郎博士の構想により、1966年に開設された東京言語研究所。昨年開催された開設50周年記念セミナーを元に編纂しました。ことばの科学が切り開く豊かで刺激的な世界へ読者を誘い、ことばを科学することの喜びと重要性を伝えます。

第Ⅰ部 日本語はどういう言語か — 内から見た日本語，外から見た日本語 —

影山太郎 第1章 複合語の小宇宙から日本語文法の大宇宙を探る

1. はじめに
2. 動詞領域と名詞領域に見られる膠着性の非対称性
3. 時制付きの複合動詞
4. 時制を伴わない複合述語
5. 定型と非定型の中間的な複合述語
6. まとめ

高見健一 第2章 話し手考慮の重要性と日本語 — 「～ている」と「～である」表現を中心に —

1. はじめに
2. 「～ている」構文
3. 「～である」構文
4. 結び

第Ⅱ部 ことばの科学 — 将来への課題 —

窪園晴夫 第3章 音韻論の課題 — 類型論的観点から見た日本語の音韻構造 —

1. はじめに
2. 母音の有標性
3. 子音の有標性
4. 音節とモーラ
5. 音節構造の有標性

三宅知宏 第4章 日本語の課題 - 「記述」と「理論」の壁を越えて -

1. はじめに
2. 現状と今後の方策
3. 事例
4. おわりに

嶋田珠巳 第5章 社会言語学の課題 — ことばの選択を考える —

1. はじめに
2. ことばの選択
3. ことばの選択をめぐる社会言語学的话题
4. アイルランドの事例にみる「ことばの選択」
5. 「〈社会言語学〉 将来への課題」を視野に

高橋将一 第6章 生成文法の課題 — 人間の言語機能の解明に向けて —

1. はじめに
2. 併合とその制約
3. 節減理論への経験的挑戦
4. おわりに

大堀壽夫 第7章 認知言語学の課題 — 文化解釈の沃野 —

1. 序論
2. 認知言語学の過去・現在・未来
3. 解釈的言語学
4. 文化のキーワード
5. 結論

理論言語学講座概要

※各講義題目の右脇の表示は、その講義題目がどの講義
カテゴリーに属するかを示すものです。講義カテゴリー
は受講生が本理論言語学講座の卒業要件を満たすかど
うかを判定する際に用いられます。

通年講座（前期と後期でセットの講座）

前期 2021年5月10日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
19:00 - 20:40（100分）

後期 2021年9月27日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
19:00 - 20:40（100分）

『「する」と「なる」の言語学』とその周辺——共時的にも通時的にも

認知言語学Ⅱ

認知言語学 ④

外国語と多かれ少なかれ苦労してつき合った経験のある人なら、誰しもその反面、いつの間にか自然と身についた自分の母語とは、（勉強して多かれ少なかれ身につけた外国語と較べて）一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはず。『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーの試論』と題された書物（大修館書店、1981）も、そのような問いかけから生まれたもの—エッセイ風の考察と言語学的な論考との中間あたりを念頭に置いての著作でした。変形文法一色に染まっていた時期には異

端的な存在と見做されていたらしいですが、現在まで18刷を重ね、今では認知的な先駆的試みと受けとめられているようです。昨年度半年間は、この書物の成立に関わるいくつかの動機づけについてお話をしました。本年度は、まず、その点についていくつかの補足をさせていただいた後、書物で提示されているさまざまな論点を言語研究の流れの中で、現時点から見た形で紹介・検討・評価させていただき、そしてその上で、聴講者の方々にもみずからの母語言語感覚に同じ問いかけをしてみてください。ただそれだけだと思っています。

池上 嘉彦

いげがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和大学名誉教授、日本認知言語学会名誉会長
東京大学で英語英文学(B.A., M.A.)、Yale大学大学院で言語学(M.Phil., Ph.D.)を専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究中心、などで客員教授、ハンブルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。著書：『英詩の文法』（研究社）、『意味論』（大修館書店）、『「する」と「なる」の言語学』（大修館書店）、『ことばの詩学』（岩波書店）、『詩学と文化記号論』（講談社）、『記号論への招待』（岩波書店）、『〈英文法〉を考える』（筑摩書房）、『日本語と日本語論』（筑摩書房）、『自然と文化の記号論』（日本放送出版協会）、『英語の感覚・日本語の感覚』（日本放送出版協会）など。学術書、翻訳、論文、多数。

テキスト・参考文献「表現構造の比較—〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語」（国広哲弥編『日英語比較講座・第4巻・発想と表現』（p.82-110）研究社、1982）をpdfで共有。その他多くの関連文献からの引用をハンドアウトとして配布。（詳しくはホームページに掲載してある記述を参照。）

この課目で前提とされる知識など 日本語母語話者でなくても、日本語に特別な関心があり、そして（当然ですが）ある程度の習熟度のある人なら、歓迎です。認知言語学については、専門的な知識は必要なく、言語への深い関心があれば十分です。

生成文法理論を通して言語を考える

生成文法Ⅰ（入門）

生成文法入門 ⑤

本講義では、下記のテキストを使用し、生成文法理論を基礎から学びます。生成文法理論における言語に対するアプローチ、分析方法、基本的概念、理論的道具立て、理論の構築方法などを取り上げていきます。また、テキスト内のエクササイズや

自作の問題を解くことで、具体的な言語現象を実際に分析していきます。テキストの内容以外にも、受講者の興味・関心を考慮に入れ、なるべく幅広く言語現象を取り上げていきたいと思っています。

高橋 将一

たかはし しょういち



青山学院大学文学部英米文学科教授
統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス
2006年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph.D.
主要論文：Putative null pronominals in English: Causes and consequences. *Studia Linguistica* 73:650-682. The hidden side of clausal complements. *Natural Language & Linguistic Theory* 28:343-380など。

テキスト・参考文献 Freidin, Robert. 2012. *Syntax: Basic Concepts and Applications*. Cambridge University Press.

この課目で前提とされる知識など 言語学や生成文法理論についての知識がなくても理解できるように講義を行います。英語で書かれたテキストを読みますが、テキストの内容についての講義は日本語で行いますので、内容を把握した上で読むことができます。また、テキストの内容についてご不明な点がございましたら、講義中も質問を受け付けます。

文とは何か：意味の単位か言語活動の単位か

日本語文法理論 I 二種の文成立論と文の種類

○ことばが文になるために何が
必要かという大問題をめぐって、二種
類の考え方が提出されました。

山田孝雄（1908,1936）は、①
文の材料たる諸観念と②それを結び
つける統覚作用（精神の統一作用）
があってはじめて文は成立すると考
え、時枝誠記（1941）は①客体的
内容を②主体的把握が包み統一して
文は成立すると考えました。それぞ
れの②が文を成立させる決め手と言
えるもので、山田の②統覚作用は述
語の陳述（述べあげ言い切ること）
に表れ、時枝の②は文末辞（助動詞、
終助詞）の統一作用がそれを担うと
されました。その時、後発の時枝は、
山田の「陳述」は自分（時枝）の言

う「文末辞の統一作用」がそれに当
たるとしたので、当時の学界は山田
の②、時枝の②を、山田の陳述、時
枝の陳述と呼ぶようになりました。
ここに内容的に相当異なった二種の
陳述論（＝文成立論）が成立したこ
とになります。○陳述とは何か、山
田の陳述と時枝の陳述を統一するよ
うな視点はあり得ないか、述語を持
たない文における文の成立はどのよ
うに説明されるべきか、時枝文末辞
の意味はすべて主体的把握（＝主観
的意味？）だと言えるのか否かとい
うようなことをめぐって、1950
～1970年代の国語学の文法論の
世界は沸き立ちました。この学史の
現代的意義を考えます。

テキスト・参考文献 尾上圭介『文法と意味 I』（くろしお出版、2001）

この課目で前提とされる知識など 必要ない。新奇な議論を受け止める柔軟な頭脳さえあれば。

尾上 圭介
おのえ けいすけ



東京大学名誉教授

大阪生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（国語学）。博士（文学）。
専攻は文法論、意味論、文法史、および「大阪の
ことばと文化」。著書に『文法と意味 I』（くろしお出版、2001）、『大阪ことば学』（岩波現代文庫、2010）、『朝倉日本語講座第6巻』（編著、朝倉書店、2004）、日本語文法学会編『日本語文法事典』（共編大修館書店、2014）など。

前期

2021年5月10日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
19：00－20：40（100分）

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論 ①

この講義では言語研究の5つの主要分野について、各分野の専門家が2回(2週)ずつリレー形式で解説を行います。「言語学概論」はこれまで半期の課目として、一人の講師がすべての分野をカバーする形で開講されてきました。今年度は前期と後期の二期に分けて開講し、合計20回の講義を計10名の講師が分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説いたします。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両

期とも受講されることをお勧めします。

今期は音声学・音韻論、形態論・語形成論、意味論・語用論、社会言語学、史的言語学の5分野について解説したいと思います。担当講師の多くは後期に各論の講義を担当しますので、これらの各論とペアにして受講されるとさらに各分野を深く理解することができるようになります。単位取得を希望する人は5名の講師が一題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。

参考文献 各講師が指定（もしくは配布）する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特に勧めの授業です。

文法形式の多義の分析から文法の基本問題へ

日本語文法理論Ⅱ 日本語文法各論：受身文・ラレル文 日本語文法理論 ②

個別の文法形式についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってまいります。今回は、「動詞+ラレル・ラレル、ル・ラル等」の形(以下、「動詞ラレル形」とその周辺諸形式をとりあげます。動詞ラレル形は「受身・自発・可能」などの意味を表す多義形式ですが、それだけでなく、表す意味ごとに格表示の様式が多様です。この、意味と格表示の両面にわたる複雑さをどう理解したらよいのでしょうか。こ

の問題を追究することで、いわゆる「受身文」の規定そのものを再考したり、さらには日本語研究における「ヴォイス」概念の再検討を行うなど、幾つかの指摘を行なう予定です。日本語を専攻する人だけでなく、他動性、ヴォイスといったことに関心のある他言語専攻の人にとっても興味を持てる内容になると思います。現代語だけでなく、古典語の例も少なからず挙げますが、知識が無くてもついていける内容にします。

参考文献・テキスト テキスト：教科書は使用せず、ハンドアウトを配布します。参考文献：川村大『ラル形述語文の研究』（くろしお出版、2012）、「動詞のラレル形——受身・自発・可能——」尾上圭介編『講座 言語研究の革新と継承 7 日本語文法Ⅱ』（ひつじ書房、近刊）等。

この科目で前提とされる知識など 日本語学・言語学の入門程度の知識が必要です。古文の知識があると理解が深まりますが、必ずしも前提としません。

窪菌 晴夫
くぼそ の ほる お
国立国語研究所教授

酒井 智宏
さかい ともひろ
早稲田大学教授



杉岡 洋子
すぎおか ようこ

慶応義塾大学名誉教授（英語・言語学）。シカゴ大学大学院言語学科博士課程修了（Ph.D.）語形成や語彙意味論、形態論と統語論の関係、語の処理に関わる心や脳のしくみを研究しています。『語の仕組みと語形成』（共著、研究社、2002）、「名詞の意味と構文」（分担執筆、大修館、2011）、「語の処理の心的・脳内メカニズム」（共著、「形態論」、朝倉書店、2016）、「形態論・語形成」（『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房、2019）など。

嶋田 珠巳
しまだ たまみ
明海大学教授

吉田 和彦
よしだ かずひこ
京都産業大学客員教授

プロフィール＝各講師の講義欄参照

川村 大
かわむら だい



東京外国語大学大学院教授
国語学（文法、文法論、日本語史）。1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。『ラル形述語文の研究』（くろしお出版、2012）、「動詞ラル形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」（『国語と国文学』89巻11号、2012）「ラル形述語文における自発と可能——古代語からわかること——」（『日本語学』32巻12号、2013）など。

広範囲な言語音を聞き分け発音し記述する

調音音声学

音声学 ④

この授業では、調音音声学的の実習をしながら、音声学の基礎を身につけることを目指します。実習では、IPA (International Phonetic Alphabet) の枠組みをもとにして、世界の言語で音素的な区別に用いられている多様な単音の(1)聞き分け、(2)発音模倣、(3)発音の内省、(4)正確な表記、といった技能訓練をします。さらに、IPAで使われている用語と、伝統的な音類用語と、音韻論で使われている音韻素性の用語との対応をわかりやすく解説をするこ

とで、音声学と音韻論の橋渡しをします。

実習と解説では、主に、分節音（子音と母音）を対象とします。最初に肺臓気流による子音、次に母音、最後に非肺臓気流による子音という順序で技能訓練を進めます。この訓練の過程で、IPAが設定している気流、発声、調音点、調音法、母音区別、また、それらの可能な組み合わせの重要なものをほぼ網羅します。

この授業を通して得た音声学的の知識と技能は、音声学・音韻論的な

テキスト・参考文献 適宜ハンドアウトを配ります。
この課目で前提とされる知識など 特にありません。

中川 裕
なかがわ ひろし



東京外国語大学総合国際学研究院教授；
PhD (Linguistics)
音声学、音韻論、音韻類型論、コイサン言語学
主要業績は下記のページをご覧ください。
<https://researchmap.jp/read0158227/>

記述を正確に読解するためにも、言語音の歴史的な変化についてよりよく理解するためにも、言語の現地調査を実施するためにも、言語の発音教育などの応用的研究に取り組むためにも、不可欠な基盤となります。

『「する」と「なる」の言語学』とその周辺——共時的にも通時的にも

認知言語学Ⅱ

認知言語学 ④

内容は通年講座(14頁)を参照。

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

言語獲得と言語理解のおもしろさに迫る

言語心理学入門

言語心理学 ④

認知科学の一分野としての言語心理学へ誘うことを目的とした講義です。言語心理学の全体像について解説した後、言語獲得と言語理解について、その意義、研究方法、これまでの研究成果、研究の現状、今後の課題などについて、できるだけわかりやすく説明します。毎回、講義後に「講義メモ」を配布します。また、進んだ探求を求める受講者のためには関連論文を配布します。

言語獲得について：まわりの人たちが話すことばを模倣し、ときに、間違いを指摘されながら、母語を身につけていくイメージだけで子どもの言語獲得を捉えていると、大切な

本質を見逃してしまうことになりま。この機会に、言語獲得の奥深さを実感してみませんか。

言語理解について：「たけしからプレゼントをもらった静香からプレゼントをもらった和也からプレゼントをもらった泰子からプレゼントをもらった道雄からプレゼントをもらったたけし」はやたらと長い表現ですが、みんなが幸せになったことはすぐわかります。でも、「坊主が屏風に坊主が屏風に描いた坊主が屏風に描いた坊主が屏風に描いた坊主を描いた」と耳にしたら、どんな状況が思い描けますか。そこで、言語理解の仕組みを探ってみましょう。

テキスト・参考文献 上記文献を含め、必要に応じて配布する。
この課目で前提とされる知識など 生成文法、言語心理学の予備知識は必要としません。

大津 由紀雄
おおつ ゆきお



関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授
一貫した関心は認知科学としての言語心理学にあります。その研究成果をもとに言語教育の在り方を考えることも重要なことだと認識しています。日本認知科学会フェロー。言語の認知科学（生成文法、言語心理学）、メタ言語能力を基盤とする言語教育。Ph.D.(MIT)。今西典子・大津由紀雄・2017。「時間表現の発達---時間の言語化にみられる普遍性と多様性の観点からの考察」Brain and Nerve 69(11) 1251-1271、大津由紀雄・2016。「ことばについて知ることの大切さ」『日本語学』35(2) 2-12、大津由紀雄・2015。「ことばの認知科学」Clinical Neuroscience 38(3) 877-881 など。

世界の言語の多様性と共通性を知る

言語類型論

言語学特殊講義 ③

世界には6000を超える言語が存在しますが、その構造は言語ごとに大きく異なります。たとえば、「シゲが(S)リョウマを(O)殴った(V)」という内容を伝えるために、日本語のようにSOV語順をとる言語もあれば、英語のようにSVO語順をとる言語もあります。さらにVSO、VOS、OSV、OVSといった語順も存在します。ばらばらです。しかし、完全に不規則というわけでもありません。実はSOV言語とSVO言語だけで世界の言語の80%以上を占めており、人間の言語に「SがOに先行する」「VとOが隣接する」という傾向があることが分かります。この講義では、このような、世界の言語を幅広く観察することによって初めて観察できる言語の特徴

に注目し、言語類型論と呼ばれる学問分野を紹介します。その前提として世界の語族や人類の歴史も俯瞰します。日本語と英語を比べているだけでは分からない言葉の世界をみなさんと一緒にのぞいてみたいと思います。

1. 言語類型と言語普遍性
2. 人類の歴史と世界の語族
3. Standard Average European
4. 語順のタイポロジー
5. 形態構造のタイポロジー
6. アラインメントのタイポロジー
7. ヴォイスのタイポロジー
8. テンス・アスペクトのタイポロジー
9. 色彩語のタイポロジー
10. 空間参照枠のタイポロジー

テキスト・参考文献 教科書は使用せず、ハンドアウトを配布します。参考文献は授業内で随時紹介します。

この課目で前提とされる知識など 入門・概論レベルの言語学の知識を前提とします。日本語や英語以外の言語の例をたくさん見ることになるので、それと根気よく向き合う気力が必要です。

長屋 尚典

ながや なおのり



東京大学大学院人文社会系研究科・准教授
PhD in Linguistics (Rice University, 2011)

オーストロネシア諸語、フィールド言語学、言語類型論。

主要著作・論文: 「意図と知識—タガログ語の ma- 動詞の分析—」(2019, 『認知言語学を拓く』),

“The thematic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective” (2019, 『言語研究』),
“Focus and prosody in Tagalog” (2018, Hyun Kyung Hwang との共著, Perspectives on Information Structure in Austronesian Languages)

<https://sites.google.com/site/naonorinagaya/>

生成文法理論を通して言語を考える

生成文法 I

生成文法入門 ④

内容は通年講座(14頁)を参照。

高橋 将一

たかはし しょういち



青山学院大学教授

文とは何か：意味の単位か言語活動の単位か

日本語文法理論 I

日本語文法理論 ⑤

内容は通年講座(15頁)を参照。

尾上 圭介

おのえ けいすけ



東京大学名誉教授

60年余に及ぶ生成統語論の歴史から科学としての言語学の方法を学ぶ

生成文法Ⅱ 極小主義アプローチの背景と展開

生成文法 ⑤

60年余に及ぶ歴史の中で、生成文法は、Chomsky氏の研究を中心にめざましい発展を遂げてきました。初期においては、規則の体系としての文法を、句構造規則、移動規則、省略規則の正確な定式化を通して精密化する作業が進められます。この研究は、文法規則の性質の説明という新たな研究課題を提示し、1970～1980年代には、文法規則あるいは文法規則が表す一般化を研究対象として、普遍的な原理群と言語間変異を説明するパラメータによって構成される理論が整備されます。Chomsky氏のKnowledge of Language (1986) に端を発する

極小主義アプローチは、この理論をさらに発展させ、言語が言語として成立するために最低限必要なメカニズムにより、原理群によって説明されてきた現象を捉え直そうとする試みです。

本講義では、この歴史を概観して、現在追求されている極小主義アプローチの背景と現時点での成果について説明しつつ、言語研究の方法について考えます。また、後半では、日英語比較を中心に据えて、極度に単純化された理論の下でどのように言語間変異を捉えることができるのかを検討します。

テキスト・参考文献 適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。

この課目で前提とされる知識など 言語学入門、統語論入門程度の知識を前提とします。極小主義アプローチや原理とパラメータの理論に関する予備知識は、必要ありません。

単語のカタチと、そこに潜んでいるイミを探る

形態論と意味

形態論・語形成論 ⑤

本講義では、形態論と呼ばれる研究分野を、意味論との関連で講義します。形態論とは、語の内部構造について研究する分野です。語には、派生語 (kindness など)、複合語 (「男泣き」など) など、複数の要素が含まれるものがありますが、そのような語の構造と意味について考察する分野です。まず、形態論に関する基本的な概念 (形態素の種類、語形成の種類、生産性など) について理解を深めた後、オランダの言語学者 Booij らが提唱するコンストラクション形態論と呼ばれる理論につい

て紹介します。さらに、それに基づいて日本語・英語のいくつかの種類の派生語・複合語などを取り上げ、その語構成の形式的特性と意味的特性について分析していきます。具体的に取り上げるのは、英語の名詞転換動詞 (cage a bird など)、日本語動詞の自他交替 (「あがる」「あげる」など)、N-V 複合名詞 (「昼寝」など)、V-V 複合動詞 (「呼びかける」など) などです。意味に関しては、昨年の『語の意味論』の講義で取り上げたフレーム意味論 (認知意味論に基づくもの) の考え方を用います。

テキスト・参考文献 陳奕廷・松本曜『日本語語彙的複合動詞の意味と体系』(ひつじ書房) Booij, Geert. Construction Morphology. Oxford University Press

この課目で前提とされる知識など 言語学の入門程度の知識を前提とします。

齋藤 衛
さいとう まもる



南山大学国際教養学部国際教養学科教授
専門は、比較統語論、統語理論。1979年スタンフォード大学哲学科卒業。1985年MIT言語学博士課程修了。句構造、移動、省略など、多くの現象について研究を重ね、統語論に関する仮説を提示してきた。主要著書には、Move α (H. Lasnikと共著, 1992, MIT Press)、The Free Word Order Phenomenon (J. Sabelと共編著, 2005, Mouton de Gruyter)、Japanese Syntax in Comparative Perspective (編著, 2014, Oxford University Press) などがある。

松本 曜
まつもと よう



国立国語研究所教授
専門は、意味論、形態論、統語論、語用論、類型論、認知言語学。
著者に
Complex predicates in Japanese (CSLI Publications)、編著に『移動表現の類型論』(くろしお出版) などがある。

理論言語学講座夏期集中

●認知言語学 I 2021年8月週末3日間

時間：1日目10:00-17:00 2日目 10:00-17:00 3日目 10:00-17:10

●日本語文法と一般言語理論 2021年8月週末3日間

時間：1日目10:00-17:00 2日目 10:00-17:00 3日目 10:00-17:10

Langackerを読む：認知文法の基礎から最前線まで

8月週末

認知言語学 I

認知言語学入門

この講義では、「言語表現の担う意味とは何か」、「文法は意味とどのように関係しているのか」、「語彙と文法はいかなる関係にあるのか」、「そもそも文法（的な知識の単位）は何のためにあるのか」、「言語の使用を可能にする知識とはいかなるものなのか」等の言語学の根本問題に対する認知文法（cognitive grammar）の考え方を、この理論の創始者 Ronald W. Langacker の著作を深く正確に読み解くことを

通して、多角的に検討します。予想を大きく上回る反響をいただいた一昨年度の講義とタイトルは同じですが、その講義では扱えなかった最近の論文からもできるだけ多くの題材を選ぶことによって、この理論の基礎から最前線までをよりよく見渡せる構成にしたいと考えています。英語が専門でない人にも原典に真剣に取り組むことの意義と楽しさを十分に共有していただけるように努力します。

西村 義樹

にしむら よしき



東京大学文学部（言語学研究室）教授
専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。

1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程（英語英米文学専攻）中退。
『構文と事象構造』（共著、研究社、1998）、『認知言語学 I：事象構造』（編著、東京大学出版会、2002）、『明解言語学辞典』（共編著、三省堂、2015）、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ：生成文法・認知言語学と日本語学』（共編著、開拓社、2016）、『メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何かがあるのか』（共編訳、くろしお出版、2017）、『認知文法論』（編著、大修館書店、2018）、『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』（共編著、開拓社、2019）、『認知言語学を拓く』（共編著、くろしお出版、2019）など。

テキスト・参考文献 講義で用いる（画面共有する）テキストはこちらで準備してあらかじめ受講者にお送りする予定です。基本的な参考文献のリストは開講前にお送りする予定ですが、それ以外の文献も講義中に適宜紹介します。

この課目で前提とされる知識など（認知文法を含む）認知言語学についての知識は前提としませんが、開講前に西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』（中央公論新社）を通読されることをお勧めします。受講者には日本語で書かれた基本的な文献をいくつか開講前にお送りする予定です。

日本語の具体的な言語事実の観察，記述から，理論的な説明へ

8月週末

日本語文法と一般言語理論

言語学特殊講義

本講義は、普遍的な一般言語理論を視野に入れながら、個別言語としての日本語について、特に「文法」（形態論、統語論、意味論、語用論との接点を含む）の分野を中心に議論します。今年度は、日本語において「文法構文」を形成していると考えられる言語現象を複数、観察することを通して、日本語の文法の基礎

的事項とその理論的展開について検討する予定です。なお、本講義は日本語の「文法」に関して、①一般言語理論研究を行う上での基礎的な知識を得たい方、②専門的な日本語研究を進める上での知識を得たい方、③日本語教育を行う上での知識を得たい方、④日本語（言語）に知的興味がある方、を対象としています。

三宅 知宏

みやけ ともひろ



大阪大学大学院文学研究科 教授

日本語学・言語学

1997年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士（文学）。

『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版 2011）、『日本語と他言語』（神奈川新聞社 2007）、『語彙論的統語論の新展開』（共編著 くろしお出版 2017）等。

テキスト・参考文献 適宜プリントを配布します。

この課目で前提とされる知識など 本講義は、受講にあたっての特別な知識は必要としません。2018年度、2019年度に引き続きの開講になりますが、講義の内容は異なりますので、今年度はじめての受講、過年度から連続の受講のいずれでも、問題はありません。

後期 2021年9月27日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
19:00 - 20:40（100分）

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論 ①

この講義では言語研究の5つの主要分野について、各分野の専門家が2回(2週)ずつリレー形式で解説を行います。「言語学概論」はこれまで半期の課目として、一人の講師がすべての分野をカバーする形で開講されてきました。今年度は前期と後期の二期に分けて開講し、合計20回の講義を計10名の講師が分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説いたします。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両

期とも受講されることをお勧めします。

今期は言語類型論、生成文法、認知言語学、言語心理学、日本語文法理論の5分野について解説したいと思います。担当講師の大半は前期に各論の講義を担当しますので、これらの各論とペアにして受講されるとさらにそれぞれの分野を深く理解することができるようになります。単位取得を希望する人は、5名の講師が一題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定（もしくは配布）する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお薦めの授業です。

語用能力をさまざまな側面からとらえてみよう

語用論入門

語用論 ①

語用論は、会話を中心とした日常的なコミュニケーションのメカニズムを研究する学問分野です。会話で使われる言葉の意味を解釈するとき、また会話の中で言葉になっていないメッセージを汲み取るとき、どちらか相手の「意図」や「態度」といった、目には見えない心の状態を推し量ることが鍵になります。この講義では、コミュニケーションにおいて、相手の意図や態度を推測する能力を「語用能力」としてとらえます。そしてその働きや発達、障害について考察していきます。語用能力は言語能力とは区別されますが、両者には強い関係性があります。言語

発達に遅れがある場合、語用能力の発達にもその影響が出る可能性があります。たとえばバイリンガル環境で育つ定型発達の子どものように、深刻な言語の遅れがある場合、日常会話も年齢相応にはできないことがあります。その一方で、高機能の自閉スペクトラム症児のように、構造的な言語力は高くても、会話は非常に困難であるケースもあります。どちらの場合も、表面的には語用障害を持つ子どもに見えますが、その原因は大きく異なります。この講義ではさまざまなケースをとらえ、言語発達と語用能力との関係についても検討します。

テキスト・参考文献 松井智子 2013 「子どものうそ、大人の皮肉」岩波書店

この課目で前提とされる知識など 特にありません。

長屋 尚典
ながや なおのり
東京大学准教授

川村 大
かわむら ひとし
東京外国語大学教授



高橋 将一
たかはし しょういち
青山学院大学教授

大堀 壽夫
おおほり としお

慶應義塾大学環境情報学部教授

Ph.D.(言語学)を1992年にUC Berkeleyより取得。主として意味論、機能的類型論（特に接続構造の類型と通時相）、談話分析、日本語、英語、東アジア諸語について研究。『認知言語学』（2002, 東京大学出版会）、『従属節の階層を再考する：南モデルの理論的基盤』（2014, 益岡隆志他編『日本語複文構文の研究』、ひつじ書房）、M. トマセロ編『認知・機能言語学』（共訳2011, 研究社）。

佐野 哲也
さの てつや

明治学院大学文学部英文学科教授

言語獲得を専攻。

University of California, Los Angeles, Ph.D. in Linguistics

主要著作：“Remarks on theoretical accounts of Japanese children’s passive acquisition,” in *Generative Linguistics and Acquisition: Studies in Honor of Nina M. Hyams*, John Benjamins, 2013. など。

その他の講師は各講師の講義欄参照

松井 智子
まつい ともこ



東京学芸大学国際教育センター教授

ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部言語学科博士課程修了 (PhD)。

著書に *Bridging and Relevance* (John Benjamins, 2000, 市河賞)、『子どものうそ、大人の皮肉』(岩波書店2013年)、『ソーシャルブレインズ』(分担執筆、東京大学出版会、2009)、『ミス・コミュニケーション』(分担執筆、ナカニシヤ、2011) などがある。

言語変化のメカニズムと記録以前の言語の復元について考える

歴史比較言語学入門

史的言語学 火

この授業では、言語の変化を明らかにするうえで有効ないくつかの方法論（文献資料の扱い方、音変化の基本的なメカニズム、比較方法、内的再建法、生成文法からのアプローチ、類推の原理）について解説したあと、その方法論を諸言語のデータに適用しながら、実際の分析を行います。この分析作業により、受講生のみなさんの問題発見能力と問題解決能力が涵養されます。オンラインの授業ですが、できるだけ対話の時間を多くとり、分析が正しい方向に向かうように助言します。分析結果そのものよりも、根拠に裏付けられ

た考え方を重視し、言語分析の面白さを体験します。主要なトピックとして、つぎのようなものがあります。

- ・言語は変化する
- ・話し手のいない文献資料から、どのようにして言語情報を引き出すか
- ・音変化のメカニズム
- ・記録以前の言語の復元（1）
——比較方法
- ・記録以前の言語の復元（2）
——内的再建法
- ・類推の役割
- ・生成文法からみた言語の変化
- ・比較言語学の歴史とその今日的意義

吉田 和彦
よしだ かずひこ



京都産業大学外国学部客員教授。京都大学名誉教授。コーネル大学Ph.D.（言語学）言葉にかかわる問題全般に興味がありますが、特に言葉の変化に興味を寄せています。印欧系諸言語は東は中央アジア、西はアイルランドにいたる広大な地域で話されてきました。それらの言語が分岐する前の印欧祖語の再建および分派諸言語の後の変化という問題に取り組んでいます。そして紀元前二千年紀に遡る古い文献記録を持つヒッタイト語などの古代アナトリア諸語が、この問題の解明に向けて重要な鍵を担っているため、アナトリア諸語を中心に据えた比較言語学的研究を世界の研究者仲間と協働しながら進めています。みなさんの関心を広げるとともに、ことばの変化に関心がある方の研究テーマが実を結ぶように、ともに学び合いたいと思います。著者にThe Hittite Mediopassive Endings in-ri(de Gruyer)などがある。

テキスト・参考文献 教科書は特に使用せず、ハンドアウトをもちいて講義します。

この課目で前提とされる知識など 言語学に関する一般的な基礎知識（特に音声学と音韻論）があることが望ましいです。史的言語学に関する予備知識は必要ではありません。時間に余裕があれば、吉田和彦『言葉を復元する』三省堂、『比較言語学の視点』大修館の1-4章を読んでおいてください。

『「する」と「なる」の言語学』とその周辺 — 共時的にも通時的にも

認知言語学Ⅱ

認知言語学 火

内容は通年講座(14頁)を参照。

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

日本語プロソディーの多様性と特徴を探る

日本語のプロソディー

音韻論 水

この講義では語のプロソディー（アクセント）と文のプロソディー（イントネーション）を対象に、日本語の構造と特徴を一般言語学、対照言語学の観点から考察します。日本語は世界の言語の中でも「アクセントの宝庫」と言われるほど多様なアクセント体系を有しています。またイントネーションの特徴も方言間で大きな違いが見られ、同じ疑問文でも文末ピッチを上げる方言もあれば下げる方言もあります。このような多様性は日本語の財産である一方

で、他方ではコミュニケーションの障害ともなりうるものです。本講義では東京方言（標準語）だけでなく、近畿方言や鹿児島方言、長崎方言、甕島方言（鹿児島県の消滅危機方言）、小林方言（宮崎県）を射程に入れ、日本語方言のプロソディー体系・構造が見せる多様性を探りながら、その多様性を言語類型論の中に位置づけてみたいと思います。同時に、日本語方言の研究が世界の言語研究に貢献できる可能性を探ります。

窪菌 晴夫
くぼその はるお



国立国語研究所 理論・対照研究領域 教授
音韻論、音声学。1986年英国エジンバラ大学大学院（言語学）修了、Ph.D.(1988年)。一般言語学や言語類型論の視点から日本語の音韻構造と音韻構造の普遍性・多様性を研究している。主な著書にThe Organization of Japanese Prosody (1993)、『語形成と音韻構造』(1995)、『一般言語学から見た日本語のプロソディー』(2021)（くろしお出版）、『日本語の音声』(1999)、『アクセントの法則』(2006)、『数字とことばの不思議な話』(2011)（岩波書店）、『通じない日本語』(2017、平凡社)。

テキスト・参考文献 テキスト：『一般言語学から見た日本語のプロソディー』（窪菌晴夫著、くろしお出版、2021年）

この課目で前提とされる知識など 言語学概論レベルの知識を前提とします。音韻論の基礎知識もあれば授業をより深く理解できますが必須ではありません。日本語の音声に関心のある人だけでなく他言語の音声や、音声以外の分野に関心のある人も歓迎します。

話し言葉からの言語学

社会言語学

社会言語学

友達と話すときの「タメ語」、先生と話すときの「敬語」、地元で話すときの「方言」。ふだんの言葉からスタートすると、言語学はどのように展開できるでしょうか。

今年度のテーマは「話し言葉からの言語学」。ここでいう〈話し言葉〉とは、ラングとパロールというときのパロールであり、いつ誰がどこで誰にという文脈と結びついた、発話を単位とした言葉のことです。インタラクション、コミュニケーション、ディスコースなどから言語の諸側面を観察します。ダイクシスや情報構造など、発話を観察するために必要な導入をおこなったうえで、敬語、方言と標準語、複数言語使用、

会話分析、言語使用とアイデンティティなどのトピックを取り上げ、社会言語学分野の、おもにスタイル(style)について理解を深めます。理論的には、パロールからの言語学はどのようなインパクトを言語学プロパーに与えるかに関係します。話し言葉(speech)から言語を考えるとときにはおのずとその言語コミュニティ(speech community)における〈社会〉と〈言語〉とのインターフェイスを見ていくことになります。初めての方から研究の領域に足を踏み込んでいる方までを想定して、「話者の見える言語学」としての社会言語学の魅力に誘います。

嶋田 珠巳
しまだ たまみ



明海大学教授

社会言語学、言語接触、アイルランド英語。2007年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了。博士(文学)。著書に、『英語という選択—アイルランドの今』(岩波書店 2016年)、共編著に『言語接触—英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』(東京大学出版会 2019年)、『時間と言語』(三省堂 2021年)など。おもな論文として“Speakers' awareness and the use of *do be* vs. *be after* in Hiberno-English”, *World Englishes* 35, 2016年。研究テーマとして「言語知識とその更新」など。

テキスト・参考文献 教科書は使わず、ハンドアウトを配布します。参考文献は適宜紹介します。

この課目で前提とされる知識など 特にありません。教室でのディスカッションがあらたな知のきっかけになるかもしれません。

生成文法理論を通して言語を考える

生成文法 I

生成文法入門

内容は通年講座(14頁)を参照。

高橋 将一
たかはし しょういち



青山学院大学教授

文とは何か：意味の単位か言語活動の単位か

日本語文法理論 I

日本語文法理論

内容は通年講座(15頁)を参照。

尾上 圭介
おのえ けいすけ



東京大学名誉教授

「意味」の意味を掘り下げる

意味論の基礎

意味論 ⑤

意味論は理論言語学の中で一番とっつきやすい分野に見えて実は一番とっつきにくい分野です。その理由の一つは、ただの「意味論」という分野が存在しないことです。存在するのは形式意味論、語彙意味論、認知意味論、etc.であって、「意味論」ではありません。いずれも意味という同一の対象を扱っているように見えながら、XX意味論とYY意味論では着眼点が大きく異なり、XX意味論の想定を受け入れることが必ずしもYY意味論の理解の助けにならないことがあります。この講義では、どの立場に立つにせよ、意味(論)について最低限心得ておきたい問題をじっくり考えてみましょう。

私の担当する意味論は2018-2019年度に続いて三回目です。2018年度は「意味は言語使用者の心の状態によって決定される」という意味の内在主義を批判的に検討し、2019年度は「概念・思考は思考主体の内的状態によって決定される」という概念・思考の個体主義を批判的に検討しました。2021年度は、内在主義・個体主義に関する論文を丁寧に読みながら、意味(論)の基礎を掘り下げてみたいと思います。継続して受講する方にとっても、今回から新たに受講する方にとっても、等しく有意義な講義となるように努めます。

テキスト・参考文献 プリントを配布します。参考文献は、授業中に紹介します。
この課目で前提とされる知識など 予備知識は必要ありません。

スクリプトを使いこなして音声学を学ぶ

実験音声学

音声学 ⑤

音声分析ソフトウェアPraatを用いて実験音声学の基本を身につけ、自ら実験をデザインし、それを実施できるようになることを目指します。授業中に実習課題が多くあるため、PCとヘッドホンを用意して

いただくことが必須となります。産出と知覚の双方について様々な実験デザインの基本形を示し、それを実行・解析するために必要なスクリプトプログラミングの仕方を基礎から丁寧に伝えます。

テキスト・参考文献 テキスト: 北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳(2017)「音声学を学ぶ人のためのPraat入門」ひつじ書房
この課目で前提とされる知識など PCの基本的な使い方(拡張子を表示できることや全角スペースを駆逐できること)。

酒井 智宏
さかい ともひろ



※状況によっては対面形式の講義も行う

早稲田大学文学学術院教授

意味論、語用論。

2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術)。2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage。主要著作:『正しく書いて読むための英文法用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2019)『最新理論言語学用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2017)、『理論言語学史』(分担執筆、開拓社、2017)。

北原 真冬
きたはら まふゆ



上智大学外国語学部教授

上智大学国際言語情報研究所音声学研究室長。専門は音声学・音韻論・認知科学。1997年京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程中退。2001年インディアナ大学大学院博士課程修了。joint Ph.D. in Linguistics & Cognitive Science。著書は本講座のテキスト。

教室地図

●公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所
事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 (新宿TXビル2階)

※ 2021年4月よりビル名が「ルーシッドスクエア新宿イースト」に変更

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-Mail:info@tokyo-gengo.gr.jp <http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>



- 東京メトロ副都心線「東新宿駅」出口B1より徒歩1分
- 都営地下鉄大江戸線「東新宿駅」出口A1より徒歩5分
- JR山手線「新大久保駅」より徒歩10分
- 西武新宿線「西武新宿駅」より徒歩15分